

濠州の旅（その一）

石井敏雄

濠州には諸先輩がすでに行っていて、畜産便りで御紹介されているので、幾分重複する向もあるが最近の模様をお伝えしたいと思います。8ミリも600フィート完成しているので風景等はこれを御利用願えれば幸いです。

ジャージー種牝牛輸送のため吾々一行は、日本郵船のチャーター船元栄丸（排水トン 11,803）に乗り込んだのは12月30日であった。12月31日午後9時30分小雨の降る神戸港をあとに機関はとて好調を続け、途中海と空ばかりの幾日かを過ぎたとき島が見えてきた。この島は西カロリン群島のヨルビック島で、高さは最高26m、1942年の調査では島民38人と記録されている。赤道を7日午前2時に通過し、この日はミュンサウ島、テイングウォン島、そして、ニューハノーバー島が眺められ、海水の温度は摂氏28度、気温は午後4時31度であった。さすがに赤道までくると暑くて日本の真夏を思わせられる。

1月10日昼食後部屋にいと船橋より船が見えるとの知らせで早速でかけてみる。日本をでて始めてみる船、その船が水産大学の海鷹丸であって、本船からW・A・Y（貴船の航海の安全を祈る）の旗が高く揚げられると、海鷹丸よりO・V・G（有難う）の旗があり、お互いにハンカチを振っている。幾日もたたないのに無味乾燥な？ 航海途中で日本船を見たときなんともいえないなつかしさを覚えました。

1月13日絵に画いたような世界3大美港といわれるシドニー港の岸壁に横付きされたのは午前8時であった。午前10時濠州大陸に第一歩を印したとき、このことは私の終生忘れることのできないことであろう。

1957年の統計では人口964万人面積は日本の約21倍で、その内7割以上の人が都市に集中していて、英国系が95%を占めている。給料は週給で、各州によって四半期毎に物価を基準にして決定されている。社会保障制度は国民保険、養老年金、失業保険等で養老年金は60才以上になると適用されている。連合政府はキャンベラにあって、重大政策は、電源開発による工業化と農業方面は単位収入及び移民の大量許可である。移民は白色人種で黄色人種は今のところ許可されてい

ない。人口が少ないので出産手当として第一子には15ポンド（12,060円）、第二子には17ポンド10シリング（14,060円）で出産後は毎月哺育手当として4ポンド10シリング（3,618円）支給されている。

気候は日本と6ヶ月の差があつて、吾々が行ったときは真夏でとても暑かった。メルボルンについたときは北風が吹いており、砂漠からくる熱風で摂氏40度以上の日が続き、急に南風に変つたとたんに摂氏20度台は下降するといういわゆる大陸性気候であった。

対日感情は1年半位前から非常に良くなってきたとか、吾々は変なことをいわれたことはなかった。感心したことは動物園、植物園に沢山の人がいたが、空壇は買った店に持ってゆき、塵は近くの箱に子供が捨てに行くという始末で、塵一つ落ちていなかったことである。

牧場は郊外にゆくと道路の両側に方々見うけられたが、牧草は乾期に入っているので一面黄色にみえ、その中に沢山の緬羊とか牛が放牧されていた。放牧地は日本の冬景色であるが、トレンチサイレージ及び乾草を与えていた。

搾乳はいずれの牧場も電気搾乳機を使用していた。変つた牧場としては、メルボルン市から12マイル離れたところにあるビクトリア州立のメトロポリタン牧場で、ここはメルボルン市の下水を海に直接放出しないで、この牧場の放牧地に流して放牧地が浄化の作用をなしている。下水に含まれている肥効成分で青々と牧草は伸びていた。放牧家畜は肉牛18,000頭、馬が350頭、めん羊26,000頭で、牛の種類はヘレホード、アバーデインアンガスであった。メルボルンでは普通污水处理費が、一人当たり、12シリング（約482円）必要な計算になるがこの牧場の収入をその方面に充当するので、3シリング7ペンス（約140円）負担すればよいことになっていた。このような大きな牧場で獣医師はいなくて毎月1回、健康診断に廻ってくることになっている。牧場の面積は26,855エーカー（約10,742町歩）で年間放牧しているので牛舎は見られなかった。（筆者 畜産課衛生係長）